

令和8年度入学 一般選抜後期日程 外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

文章の大意を掴んだ上で、文の構造、文法、語彙を理解し、内容を把握する力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率はかなり低かった。単語をただ繋げて、自身の知識からの恣意的な解釈で解答するのではなく、文の前後関係を的確に読み、内容に沿って考え、英文を読み込むことが大切である。日本語で解答するものは、日本語として意味が正しく成り立っているのかを、最後に確認する習慣をつけてほしい。

問1

語彙、イディオム、副詞、接続詞の中から、前後の文章を踏まえて、適切なものを選ぶことが求められる。

問2

問題を正確に理解している受験者が少なく、正答率は低かった。特に、at best を「よくても、最も良い場合でも」ではなく「一番の問題は」としている解答や、cancel out を「やめる」などとしている解答が散見された。また、these things を正確に理解していない解答が多かった。本文を精読し、内容を理解することが望まれる。

問3

日本語として不自然な解答が目立った。解答後に、書いた内容を再度読み返して確認すると良い。また、単語の読み違いと思われる解答が散見された。例えば、profession を「教授」や「専門家」と読み違えたと思われる解答があった。

問4

正答率が非常に低かった。解答すべき2点のうち、特に「解決するために、まず何をすべきか」の正答が少なかった。The first step is merely acknowledging what does, and does not, make almost everyone happy. の意味を正確に理解することが重要である。単語を覚えることも大事だが、まずは文法の骨子をとらえる練習が必要である。

問5・問6

文章を読み、内容を正確に把握する力をみることをねらいとした。長文の全体の流れを掴みながらも、細かい箇所まで読み解くことが求められる。

第2問

【出題のねらい】

会話文を読み、それぞれの状況に応じて、適切な英語を使用し、会話を表現することができるかどうかをみることをねらいとした。前後の会話だけでなく、全体の会話を捉え、それを踏まえて、最もふさわしい表現をすることができるかを問うた。

【講評】

全体として5割程度の正答率であった。

問1

全体として平均点が高く、問2と比べても多くの受験者が正しく解答できていた。特に後半の2問については正答率が高く、会話の内容を適切に理解している受験者が多かった。一方で、前半の設問では会話の文脈を十分に把握できていない解答も一部見られた。また、I can speak English and Japanese, but I want to learn Chinese のように、英語と日本語をすでに話せると解釈してしまう解答も見られたが、会話の意図は「日本語を学んだ後にバイリンガルになる」という内容であり、トライリンガルになるという意味ではない。

問2

会話の主題を誤って理解している解答が一定数見られた。特に、会話の中心がニューヨークに住んでいる姉とその居住期間についてであると解釈してしまう受験者が見られたが、実際には姉の写真撮影という趣味について述べられている部分が会話の主題である。会話全体の流れと主題を正確に把握することが求められる問題であった。

第3問

【出題のねらい】

本問題は、提示されている条件に最低限従い、題目に関して賛成か反対か、自分の意見を英語で論理的に述べる力をみることをねらいとした。

【講評】

解答は最低5文以上とし、意見を述べる際は、論理的な根拠と具体的な根拠を用いて論を展開することが求められる。分量・内容ともに不十分な答案が多く見られた。また、vote（投票する）とelection（選挙）は意味が異なる語であるにもかかわらず、混同している解答が散見された。文法面の誤りでは、副詞のalmostを名詞の前に置いたAlmost people（正：Most people）、「ほとんど～ない」という否定の意味になってしまうworking hardly（正：working hard）、そして名詞のfreedomを使うべき箇所ではhave free toとしたもの（正：have the freedom to）が目立った。語彙の正確な意味と品詞の使い分けを今一度確認しておくことが望まれる。